

ふるさとファイル

展示コーナーだより
第 59 号
平成 26 年 7 月
生涯学習課文化財係

奉安殿の建立と 学校生活

展示期間

平成 26 年 7 月 2 日 (水)

～9 月 30 日 (火)

※図書館休館日を除く

※期間中、一部、展示内容が変わります

戦前の小学校には、「奉安殿」と呼ばれる施設がありました。「奉安殿」には「御真影」や「教育勅語」が安置され、学校で最も神聖な場所として最大の敬意と細心の注意が払われました。戦後、「奉安殿」は撤去されましたが、神足小学校や長法寺小学校には、当時の資料が残っています。

今回は、これらの資料を用いて、「奉安殿」に保管されている「御真影」や「教育勅語」が忠君愛国教育の一助となり、学校行事にも頻繁に関わっていくさまを紹介します。



ごしんえい 「御真影」の下賜

戦前の小学校には必ず「御真影」が下賜されていました。

神足小学校では昭和 3 年(1928) 6 月に「御真影^{はいたい}拝戴願」が出されました。10 月には村長・校長らが、巡查警護のもと、京都府庁へ「御真影」を受取りに行き、その日のうちに神足小学校において「御真影^{うつ}拝戴式」が行なわれています。式終了後、「御真影」は乙訓高等小学校奉安庫に遷され、神足小学校の「奉安殿」が完成するまで仮置きされました。

職員・児童は、「御真影」に対して朝夕必ず最敬礼をすることが義務づけられ、「登下校時に校門をくぐると体が自然に奉安殿に向く」ほど徹底されたといわれています。



ほうあんてん 「奉安殿」の建立

「奉安殿」とは、学校に下賜された「御真影」や「教育勅語^{しょうじょ}」、詔書類を保管する施設のことです。

「御真影」や「教育勅語」は、当初、講堂や校長室などに安置されていましたが、火災や盗難等の被害から守るため、次第に「奉安殿」「奉安庫」と呼ばれる、別棟の鉄筋コンクリート施設に安置されるようになりました。

「奉安殿」は、大正の終わりから昭和の初めにかけて全国的に設置されるようになります。市域の小学校でも大正 12 年(1923)に長法寺小学校、昭和 3 年(1928)に神足小学校で、「奉安殿」が建立されました。



建立当初の長法寺小学校奉安殿
(大正 13 年、長法寺小学校所蔵資料)

長法寺小学校の奉安殿

長法寺小学校は、大正 11 年(1922)に創立五十周年を迎え、これを記念して式典の開催や楽信文庫らくしんの設置など、さまざまな事業が計画されました。事業の実施にあたって、校区内の村々はもとより、京都市・大阪市・滋賀県など遠方まで寄付金が募られ、このときに滋賀県の実業家井狩弥左衛門から「奉安庫」1棟が寄付されています。「奉安庫」は翌年 12 月 21 日に竣工し、「御真影」が納められました。長法寺小学校ではこの日を記念して毎月 21 日を全校遠足日としています。

昭和 9 年(1934)の室戸台風で、長法寺小学校でも校舎が大きな被害を受けました。「奉安殿」も例外ではなく、周囲に植栽されていた桜が倒れ、屋根が損傷するなどの被害を受けています。「奉安殿」は直ちに修復され、その際に内部を「神殿造り」に改装したようです。

神足小学校の奉安殿

昭和 3 年(1928)年、昭和天皇の即位を記念して「御真影」の拝戴と「奉安殿」の建立が計画されました。

「奉安殿」の建立に際して、神足の平木岩次郎が大工棟梁を勤め、青年訓練所の生徒や青年団幹部たちが記念木石の移植や土砂の運搬などの作業に参加しています。建立にかかった費用はすべて新神足村民や村出身縁故者からの寄付金で賄われました。

11 月 3 日に竣工式が行なわれた後も、青年訓練所の生徒や青年団、在郷軍人会などによって、松・楓・桜といった記念樹が次々と植えられています。



昭和 3 年「大正奉安殿記録」(神足小学校所蔵資料)

「奉安殿」建設の経過を記した「記録」と「寄付者芳名録」の 2 冊からなります。「寄付者芳名録」には平安神宮神苑などの作庭で有名な七代目小川治兵衛(神足村出身)の名前が記載されています。



神足小学校の奉安殿(昭和 11 年、神足小学校所蔵資料)

「奉安殿」は当初、校内の北側に南面して建立されていましたが、昭和 11 年に学校が旧校地(神足二丁目)から現在地へ新築移転した際に、校地の西に遷されました。



「忠君愛国」教育と学校行事

戦前の小学校では、入学式や卒業式など、学校の行事に加え、勅語奉読式、四大節などの国で定められた行事を行なっていました。

長法寺小学校では、入学式や進級式、卒業式はもちろんのこと、陸軍記念日(3 月 10 日)に開かれた児童学芸会においても「君が代」が斉唱され、「教育勅語」が奉読されています。このような行事・式典を繰り返し行なうことによって、「忠君愛国」精神を養成し、「教育勅語」の趣旨を浸透させていきました。